

がん哲学外来市民学会の開催延期のお知らせ  
群馬大会 大会長 片山 和久

謹啓 新緑の候、関係各位の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

2020年7月4日～5日の日程でがん哲学外来認定コーディネーター養成講座並びに市民学会を開催させて頂く予定で準備を進めて来ておりました。

しかしながら世界的な問題となった新型コロナウイルス感染症の蔓延は依然として広域災害の様相を呈しており、多くの方が感染の危険と隣り合わせになりながら不便な日常生活を送られている事と思います。

多くのイベント・学会・研究会が延期や中止になっていることは皆様既に周知の通りであります。本学会についても諸般の事情に鑑み、開催の可否について検討せざるを得ない状況になり、樋野先生と私を含めた実行委員の間で相談させて頂きました。その結果、今年度は開催延期とさせて頂き、約1年後を目処に日程を調整させて頂く事となりました。尚、延期後の日程・プログラムについてはこれから検討させて頂きますので暫しお時間が掛かることをご容赦ください。

本学会のテーマは「人生の邂逅に見る不連続の連続性」です。新型コロナ感染拡大がもたらした今回の決断も一つの人生の邂逅と捉え、仕切り直しの開催にご参加頂く皆様方にとって、より実り多き集いとなるように連続性を持って繋げていきたいと思います。

多大なるご心配とご迷惑を皆様にはおかけ致しますが、何卒ご理解ご協力の程をここにお願い申し上げます。次第でございます。末筆ではございますが、皆様の益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

『「Dr. カキゾエ黄門」漫遊記』

日本対がん協会 中村 智志

「がん=死」のイメージを変えたい。がん経験者や医療現場の声に耳を傾けたい。日本対がん協会会長で、国立がんセンター元総長の著者は、全国32のがんの中核病院を、できる限り歩いて訪ねることを思い立つ。

2018年2月、雪の福岡を皮切りに真夏の北海道まで、「がんサバイバーを支援しよう」という幟を持って、ひたすら歩いた。

著者自身、初期の大腸がんや腎臓がんを経験している。何より、2007年の大晦日に妻を肺がんで亡くし、一時は酒浸りになった。それだけに、患者や家族向けの視線は温かい。

獐猛そうな犬との遭遇、飛ばすダンプカーとの“勝負”、排尿が困難な病気の発症、人々の励まし、絶景や名酒との出会い……。型破りの旅行記はまた、人に優しい社会とは何かを気づかせてくれる。



『「Dr. カキゾエ黄門」漫遊記』  
(垣添忠生著 朝日新聞出版)



笑顔の「贈り物」  
金井 智波さん

「贈り物」

松本みずたまカフェ 金井 智波

私がガンと診断されて読んだ一冊の本の中に「ガンを贈り物と考える人もいる」とあった。

時折、涙しながら読んでいたその本を私は瞬間、床に投げ捨てた。いきなり心がフリーズしたのだ。

そんな人がいたらお目にかかりたい！誰がどう間違っていてそんな気持ちなるわけ？心乱れ混乱し、やるせなさが残った。病いが贈り物だなんて西から太陽が登っても信じられない。

そして標準治療を終えて約二年。今、私は笑って生きている。ガンと知り生きる事から解放されると思った。なのに「ガン」がなぜ生きないのか？と問う。

ガンは日々死に向かって増殖しながら私の中で一番生きたい強い意志を持って、私の生きる力を探り出す。自分らしくありのままでいいじゃないかと。

ガンが私に新たな仲間を作り新しい世界の扉を開いた。そして消えた。私に沢山の贈り物を残して。

<編集後記> がん哲学外来市民学会 星野 昭江

◇ 漫遊記。面白くて一気に読んだ。読み終えて「私もお供したかった」。陰の声(あんたは腰が曲がっていて歩けないだろう。車に轆かれたらどうする。日本の歩道はあって無きが如しなのだ)。ソウカモ シレナイ。  
◇ 市民学会の延期。第1回から今年の埼玉大会までずっとカメラを持って会場を動き回った私。今年はそれが出来ない。「ステイホーム。自粛!」。嗚呼!

只今 準備中

第9回  
**がん哲学外来  
市民学会 群馬大会**

会場 K'BIX元気21まえばし 3F 中央公民館大ホール  
人生の邂逅に見る不連続の連続性

前日7月4日は第10回がん哲学外来コーディネーター養成講座を開催いたします。  
会場：群馬医療福祉大学 本町キャンパス 6階  
大会長 伊勢崎市民病院外科診療部長 片山和久